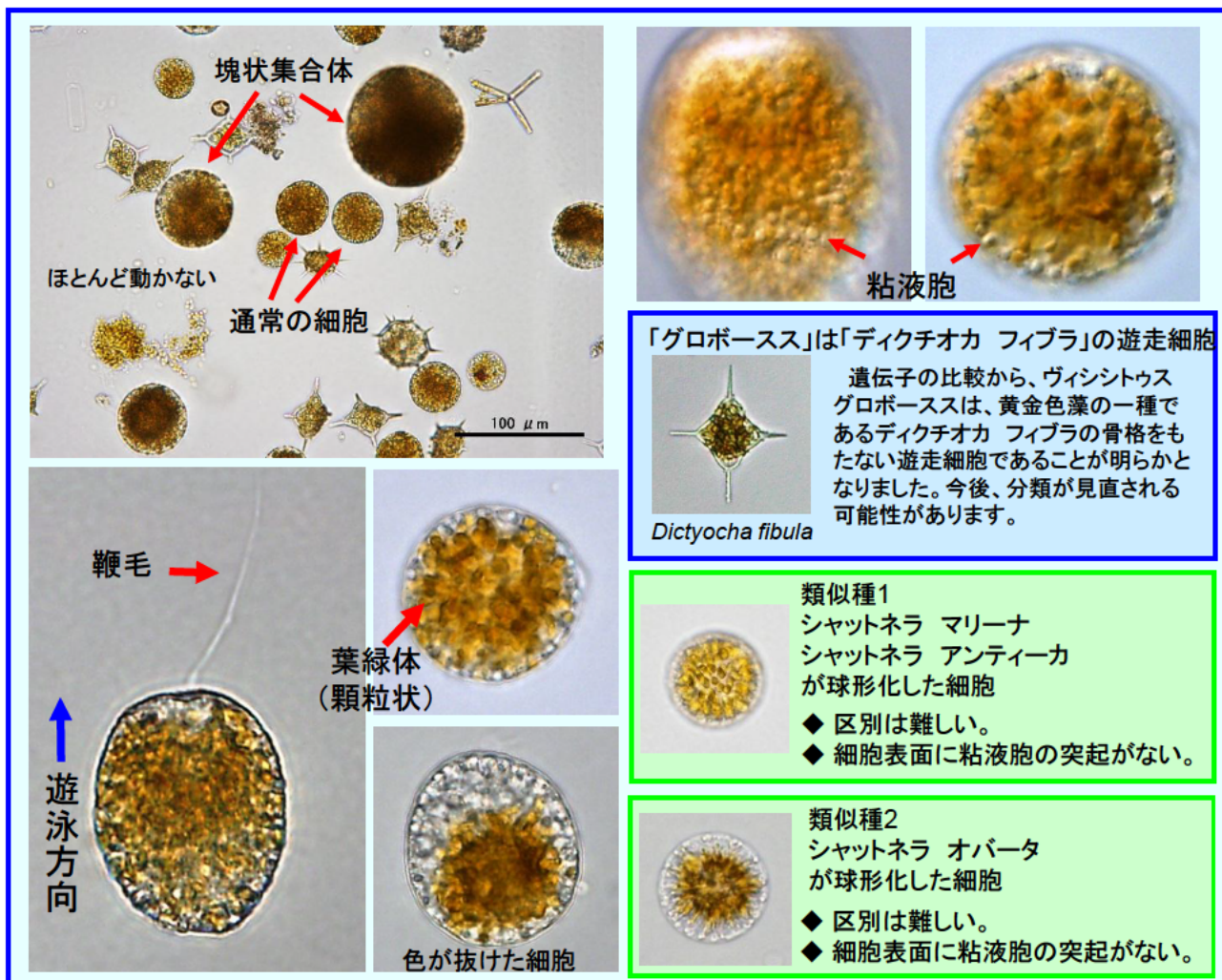
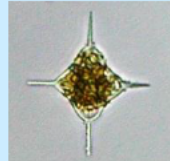


# ヴィシトウス・グロボースス(ディクチオカ藻)

(*Vicicitus globosus*)



「グロボースス」は「ディクチオカ フィブラ」の遊走細胞



*Dictyocha fibula*

遺伝子の比較から、ヴィシトウスグロボーススは、黄金色藻の一種であるディクチオカ フィブラの骨格をもたない遊走細胞であることが明らかとなりました。今後、分類が見直される可能性があります。

## 類似種1

シャットネラ マリーナ  
シャットネラ アンティーカ  
が球形化した細胞

- ◆ 区別は難しい。
- ◆ 細胞表面に粘液胞の突起がない。

## 類似種2

シャットネラ オバータ  
が球形化した細胞

- ◆ 区別は難しい。
- ◆ 細胞表面に粘液胞の突起がない。

**大きさ:** 直径40~55μm (塊状集合体は100μm以上に達する)

**形態:** 色は黄褐色~茶褐色。細胞は球形。長さが異なる2本の鞭毛をもつが、短い方の鞭毛は観察しづらい。葉緑体は顆粒状で、シャットネラ属よりもやや小さい。細胞表面に粘液胞(ねんえきほう)があり、多数のイボ状の突起として観察される。この粘液胞の突起の有無で他のシャットネラ属が球形化した細胞と区別できるが、確認は難しい。細胞どうしが結合して、球形あるいはアメーバ状の塊状集合体(かいじょうしゅうごうたい)をつくることもある。

**動き:** ゆっくりと遊泳するが、ほとんど動かない場合が多い。

**旧名称:** シャットネラ グロボーサ (*Chattonella globosa*)

**魚介類への影響:** 魚介類への影響は良くわかっていない。平成20年に県内で赤潮が発生した際には、数十細胞/ml程度でも、養殖魚の餌食が悪かったとの情報がある。同じ種とされるディクチオカ フィブラは、ヨーロッパで養殖魚のへい死原因となっており、国内でもサケのへい死やカンパチなど養殖魚への悪影響が報告されているため、魚介類のへい死を引き起こす危険性があるものとして対応する必要がある。

**漁業被害:** 平成9年に的矢湾~二木島湾で、平成20年に鳥羽~南伊勢町(奈屋浦)で赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。

**発生海域:** 伊勢湾~熊野灘沿岸

**発生時期:** 7~8月頃(夏季中心)